



牧が丘だより

真岡市立中村中学校 学校だより

校訓 自主の精神

令和3年度第6号

令和4年3月15日発行

編集・発行 教頭 藤田 健司

◇3月9日（水）第75回卒業式を実施することができ感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、卒業生とその保護者、教職員での縮小実施となりましたので、校長式辞を掲載させていただきます。



[式辞]

春の息吹が感じられる今日この佳き日

保護者の方々をお迎えし、第75回卒業式が挙行できますことに、心から感謝申し上げます。

118名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。先ほど皆さんに手渡した卒業証書には、2つの意味が込められています。1つめは、「3年間、たゆまぬ努力をして中学校の全ての教育課程、つまり、学業の全てが修了したこと」2つめは、「9年間の義務教育が終了し、自らの判断と責任において、自分自身の人生を切り拓いていく出発点に立つことができた」という意味です。卒業生のみなさん、もう一度、その両手にそっと力を込め、膝の上にある卒業証書から2つの意味の深さ、責任感、感謝、そして、自分自身への「自信と誇り」を感じ取ってください。

今、思い返すと、皆さんの中学校での3年間は、社会的に大きな変化の中であったと認識しています。入学1ヶ月後、5月、元号が「平成」から「令和」に改元され、新しい時代の幕開けが世の中を包み込みました。皆さんとの出会いは、その直後、5月21日、私の待つ自然教育センターに、元気よく入所したことを覚えています。少し、あどけなさが残るはち切れんばかりの笑顔で、多くの活動を通しながら友との友情を深め、絆を確固たるものにする様子が、今でも鮮明に蘇ります。

ただ、令和2年3月3日から感染症防止対策のため臨時休校…。日本が、いや世界中が混乱の波に襲われました。6月、学校再開まで、時の流れは無情にも遅いと感じたのは、私だけではないでしょう。しかし、全生徒・教職員がもどった学校はまるで新たな息吹を得たかのように、鮮やかな色を放ち輝きを取り戻したことを今、一緒に思い出しましょう。

特に、3年生となったこの、一年間。昨年度実施できなかった、夏の大会や各種コンクール、まるで2年分を凝縮するよう、県・関東・全国の舞台上で力を遺憾なく発揮したこと。何よりも、部活動で過ごした友との貴重な時間が最後に凝縮され、自然と涙する姿に心打たれました。10月、信州長野への修学旅行、価値ある最高の思い出を胸に刻むためにも、何としても実施する決意でした。期待通り、豊かな自然や深い歴史・文化と触れあう皆さんに、まるで全てを吸収し己の糧とする勢いを感じました。学校祭などの学校行事でも、制限された環境を、逆に楽しむかの如く、互いの考え・想いを調和させ実行する姿が、牧が丘のプライドを示すものであり、「自主の精神」という伝統のバトンを後輩へ繋ぐものとなったと感じています。

今後、皆さんが活躍を目指す社会は、過去の事例や経験にとらわれることなく、新たな発想・手段が必ず求められます。グローバル化、世界的な情報社会、多くの民族の垣根を越えた国際理解が求められる時代です。そして、豊かな生活を求めていくと同時に、地球上にある多くの課題を解決しなければなりません。このような時代だからこそ、皆さんに求められるのは、「自主の力」、「創造の力」、「奉仕の力」だと考えています。一人の自立した人間として、何事にも対峙していく力をもってほしいと強く願っています。

保護者の皆様に、一言お礼を申し上げます。「お子様のご卒業、誠におめでとうございます。」そして、本校の教育活動に温かいご支援とご協力を賜りましたことに、心よりお礼を申し上げます。

私ども教職員は、大切なお子様を三年間お預かりし、一人ひとりの幸せを願いながら、渾身の力を込めて教育に携わってまいりました。3年間という限られた歳月の中でこのように立派に成長したことを、大変嬉しく思うとともに、今後、明確な信念のもと「新たな夢」をもとめ、人生を歩むと確信しております。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時がきました。皆さんは、本校の歴史に新たな1ページをしっかりと刻んでくれました。青春の学び舎「牧が丘・中村中学校」は永遠の故郷です。いつまでも温かく、見守っています。結びに当たり、本校の全ての教職員を代表し、悠々たる皆さんの前途を祝し式辞といたします。

令和4年3月9日 真岡市立中村中学校長 古澤 英明